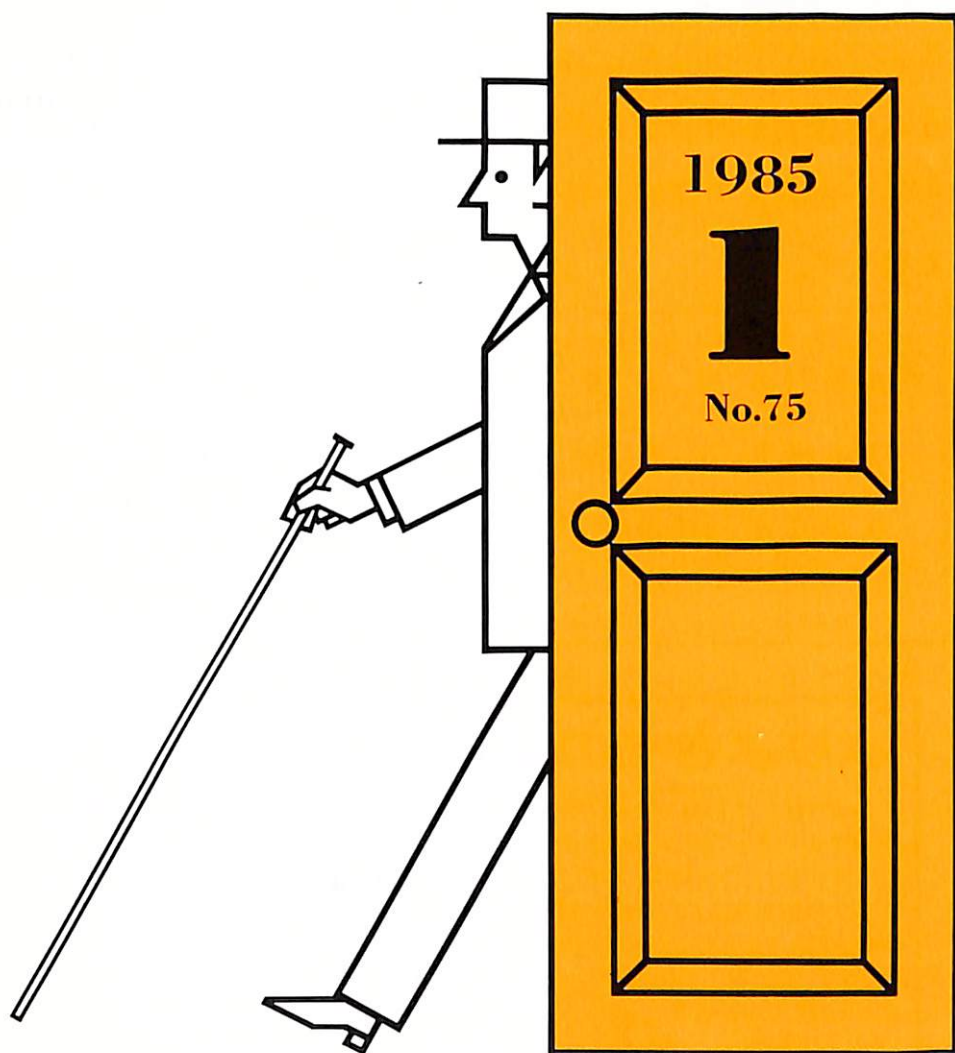


昭和四十六年六月一七日 第三種郵便物認可 昭和五十九年十二月十五日 SSK通巻一二七一号(毎月六回、5の日、0の日発行)

視	覚
障	害

その研究と情報

特集 * 青春時代



ISSN 0385-7476

SSK

新刊案内

人と業績——盲先覚者の偉業をたずねて

川野 楠己 著

定価 1,200円

(送料別 300円)

NHK「盲人の時間」のディレクターが、取材から得た感動を、そのままぶつけた力作です。

6人の盲先覚者の生きざまが、そのまま読者に伝わってきます。

永年、盲関係の図書を発刊してきた本会が、自信をもっておすすめできる書です。

葛原 勾当 箏曲家

森 恒太郎 元余土村村長

平方 龍男 はり師

中道 益平 元光道園園長

後藤 寅市 前北海点字図書館長

金成 甚五郎 元和歌山県立盲学校長

元日本盲人会連合会長

よりよきものをもとめて

1977年、AFB(アメリカ盲人援護協会)が、白杖メーカーから10種類の杖を集め、総合テストを行った結果、ポケットブルケンが最も秀れていると評価されました。日本でも好評発売中です。長さは、92cmより137cmまで5cmきざみに10種類。



M-120

ポケットブルケン

¥4,700円(送料350円)

杖のジウムでは、直杖種類・折りたたみ杖4種類を発売しており、石突スベア及び折りたたみ杖については修理をうけたまわっております。

●御注文、御問合わせは下記に願います。

〒553 大阪市福島区大開1-7-23 ☎06(463)2104 振替大阪2645

株式会社 **ジウム社**

目 次

1985年 1月 No.75

2 ページ評論	片岡 好亀	2
特集 青春時代		
座談会「青春時代」	江村 圭己・水原 エリ 尾形 真澄・内田 捷治	5
全点協運動の中で	竹村 実	20
青春に生きる	藤野 高明	25
弁護士を目指しての10年	竹下 義樹	30
ボランティア西・東		
ひまある会		36
この人と語る		
点字表記をめぐる	永井 昌彦・木塚 泰弘	42
インフォメーション・コーナー		58
編集後記		72



若い人への提言

名古屋ライトハウス会長 片岡好亀

僕は明治36年北海道で生まれた。現在満81歳である。従って前途ある皆さんにアドバイスする機会を与えられたことに面映ゆさを感じずるが、今でも僕の心に蘇ってくる60年前の東京盲界事情の一端を書き、当時の若者達の現状を述べ、その内で僕自身が選んだ進路を思い起してみたい。

僕は20歳函館師範学校在学中に視力を失った。失意から立ち直った僕を兄夫婦が伴い官立東京盲学校中等部鍼按科に入学したのは、大正12年関東大震災の年だった。当時、東京には本校の外に四つの私立盲学校があったが、それらに学ぶ諸君の多くは業者の家に住み込み、夜は遅くまで客を求めて笛を吹き治療をして翌日登校するという毎日であった。その勉強の内容も鍼按の理論や技術のみで普通教科はほとんどなかった。就学奨励法で何もかも保障されている現在から見れば惨憺たるものだった。また点字図書館は皆無、点字出版所といえば東盲の同窓会が鍼按の図書や機関誌「六つ星の光」を発行、肥後氏が鍼按教科書を、伊達氏が簡単な英語辞典や辞林などを発行していた。盲人キリスト信仰会からはキリスト教関係の図書や「信仰」という雑誌を発行していた。今日の福祉施設に当るものといえ^{こんにち}ば日本盲人協会の盲人寮と仲村点字器製作所があった。

このような中で齊藤武弥氏はマッセルの傍、同志と企^{はか}って徒弟制度の廃止、盲学生の援助を掲げ、また百合夫人も全盲女子大学卒の第1号として大学の門戸開放や盲女子のための陽光会の建設を旗印に夫妻で多忙を極めていた。また盲教育者の団体である「帝国盲教育会」は盲児の義務制の実施、教科書の低廉支給を掲げて文部省、議会に陳情請願を繰り返していた。このような背景の中で、我々盲

学生は十有余万の仲間達の悲惨な生活を心から憂い、開拓精神に燃えて学業にも学生運動にも若い血潮を燃やしたものだ。

僕が中等部4年の秋だった。郷土の大先輩、熊谷鉄太郎氏が関西学院の神学部を出て牧師になり、岩橋武夫氏がやはり同大学で英文学を専攻し近く英国に留学するといひ、大野加久二氏が点毎に迎えられてジャーナリストの道を歩いているといった情報を耳にして多感な僕は自分自身の進路について多に悩んだ。

折しも上京された鳥居篤治郎先生に会い僕の悩みを率直に訴え助言を仰いだ。じっと僕の話を書かれた先生は「片岡君、迷うべきでない、師範部に入り給え。君は教育者を指して師範学校に入り失明したと聞いた。今、日本の盲界で必要なのは宗教家でも英文学者でもジャーナリストでもない。盲人全体のレベルの向上に役立つ盲教育者だ」と実に明快な答を頂いた。以後僕は鳥居先生を我が人生の道案内として盲教育者になろうと決意し、昭和2年師範部に入学した。優秀な新人達が地方から大勢加わり新鮮な感動がクラスに漲った。

本庄博士の内科、江村ドクトルのマッサージ等専門教科は高度となった。更に盲教育や盲人心理等教職課程が加わり、また臨床実習や教育実習をみっちり学んだ。

昭和5年、多くの学友が希望に燃えて任地へと飛び立って行つたが、僕はもう少し研究を続けたいと母校の嘱託講師を拝命し東京に残った。ちょうどこの時期までを近代日本盲界の黎明期と重ねて僕の青春時代と考えている。

あれから60年、教育・福祉のあらゆる面で確かに充実はしたが、なお未解決の問題は山積しており新しい開拓者を求めていることは明白である。

僕は誰でもこの世に産れてきた以上果さなければならない使命があると信じている。どうか、皆さん一人一人が自分の果すべき使命は何かをしっかりと掴みそれを果すために命をかけ生涯を貫いてほしいと申上げて結びといたします。

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

—— 編 集 後 記 ——

また、新しい年を迎えることになりました。“また”という言葉がでてくるのは、私が歳をとったせいでしょうか？今回の特集は、“青春時代”ということで、まず、若い3人の女性に登場してもらいました。それぞれ夢と希望にあふれていながら、それでいて現実をしっかり見つめ、足を地につけて歩いている現代っ娘たちです。彼女たちが、将来、幸せな人生を送ることを望まずにはいられません。竹村さん、藤野さん、竹下さんのお三人も、それぞれの激しい青春の思い出を書いてくださいました。“目が見えない人たちの青春”を、どうお感じになったのでしょうか？

皆様のお手元にも、「盲学生情報センター設立募金趣意書」が届いていることと思います。日本盲人福祉研究会の一大発展を期して計画されたものです。盲学生の学習上の問題を解決するために、単に情報提供にとどまらず、实际的な援助をしたいと考えています。皆様の絶大な御協力を、心からお願い申し上げます。周りの方にも、募金を呼びかけていただければ幸いです。（田中徹二）

視 覚 障 害 1985年1月 No.75
年間購読料 3,000円（送料とも）
発行日 1985年1月1日
編集人 （連絡先）

日 本 盲 人 福 祉 研 究 会
〒160 東京都新宿区高田馬場1丁目
日本点字図書館内 23番4号
電話（03）200 - 1130
振替口座 東京 6 - 1 6 1 0 3
発行人 身体障害者団体定期刊行物協会
〒157 東京世田谷区砧8 - 21 - 3
印刷所 合同印刷株式会社
〒130 東京都墨田区業平2 - 9 - 13
電 話（624）6111（代表）

協賛団体 日本点字図書館